

2025~2026

[illegible]

理事長挨拶

抗加齢医学の実践による真の若返りへの挑戦—

日本抗加齢医学会は、世界で最も高齢化が進んでいる日本において、9,400名を超える医療専門職によって構成された学術団体です。医師・歯科医師を中心に、薬剤師・看護師・管理栄養士・理学療法士など多職種の連携を基盤とし、科学的根拠に基づいた予防医療と実践知を発信し続けています。学会が支援する学術誌 npj Aging は、インパクトファクター6を記録(2025年6月現在)するなど、国際的にも注目を集めています。

そして、2025年には、大阪・関西万博が開催され、多くの方々の記憶に残る素晴らしいイベントとなりました。本学会も「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマのもと、大阪ヘルスケアパビリオンの企画に全面的に協力をさせていただき、抗加齢医学の最新研究や未来型ヘルスケアを世界に発信することができました。会場では、再生医療や遺伝子医療、AIを活用した個別健康管理・生活習慣改善プログラムなど、最先端の抗加齢医学が多くの来場者の関心を集め、国内外の研究者や企業との新たな連携も生まれました。また、万博と同時に開催された第一回世界長寿サミットを通じて、社会全体に抗加齢医学の意義と可能性が広く浸透したことは、大きな成果です。

私は、新理事長として堀江・山田前理事長の進めた路線をもとに、世界的に潮流となってきた「リバーサエイジング」の概念を、科学に裏付けされた形で進めていきたいと思っています。抗加齢医学において、もはや加齢の進行を遅らせるだけでなく、科学的根拠に基づいて心身の若さを取り戻す挑戦は、もはや未来の夢ではなく、現実の医療とライフスタイルに近づきつつあります。

これからは、万博で得た経験と国際的なネットワークを活かし、研究成果をさらに社会実装へと結びつけていく学会として、活動を進めてまいります。高齢化が進む日本から、世界へ。ポスト大阪・関西万博として、ここから世界に向けた新たな健康革命が始まります。本学会としては、アンチエイジング、そしてリバーサエイジングによる健康寿命の延伸と、活力ある長寿社会の実現に向けて、学術・医療・産業が一体となった新たな挑戦を続けていく所存です。

日本抗加齢医学会 理事長 **森下 竜一**



■ 名誉理事長

吉川 敏一 公益財団法人ルイ・バストゥール医学研究センター 理事長

■ 理事長

森下 竜一 大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学寄附講座 教授

■ 副理事長(五十音順)

井手 久満 順天堂大学大学院医学研究科デジタルセラピューティクス講座 特任教授
小沢 洋子 藤田医科大学東京先端医療研究センター臨床再生医学講座アイセンター 教授

阪井 丘芳 大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能治療学講座 教授
南野 徹 順天堂大学大学院医学研究科循環器内科 教授

■ 理事(五十音順)

赤澤 純代 金沢医科大学総合内科学 臨床教授 金沢医科大学集学的医療部総合診療センター長
伊藤 裕 慶應義塾大学予防医療センター 特任教授
尾池 雄一 熊本大学大学院生命科学研究部分子遺伝学講座 教授 熊本大学医学部長
大須賀 穰 帝京大学臨床研究センター センター長 帝京大学 教授
勝谷 友宏 勝谷医院 院長 大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学 招聘教授
佐野 元昭 山口大学大学院医学系研究科器官病態内科学 教授
新村 健 兵庫医科大学内科学総合診療科 主任教授
高橋 謙治 京都府立医科大学大学院医学研究科運動器機能再生外科 教授
坪田 一男 株式会社坪田ラボ CEO 慶應義塾大学 名誉教授
東條 美奈子 北里大学医療衛生学部 教授

富田 哲也 森ノ宮医療大学大学院保健医療学科 教授
内藤 裕二 京都府立医科大学大学院医学研究科生体免疫栄養学講座 教授
中神 啓徳 大阪大学大学院医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授
中島 孝哉 中島こうやクリニック 院長
平野 滋 京都府立医科大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科・頭蓋部外科学 教授
堀江 重郎 順天堂大学大学院医学研究科泌尿器科学 主任教授 順天堂医院 副院長
山岸 昌一 昭和医科大学医学部内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科学部門 主任教授
山田 秀和 近畿大学アンチエイジングセンター 近畿大学医学部 客員教授
吉村 浩太郎 自治医科大学形成外科 教授
米井 嘉一 同志社大学生命医科学部アンチエイジングリサーチセンター 教授

■ 監事(五十音順)

阿部 康二 石巻市立牡鹿病院 病院長

大慈 弥裕之 福岡大学 名誉教授

■ 顧問(卒年順)

赤沼 安夫 朝日生命成人病研究所 名誉所長
家森 幸男 武庫川女子大学国際健康開発研究所 所長

藤田 哲也 公益財団法人ルイ・バストゥール医学研究センター分子免疫研究所 所長
水野 嘉夫 前東京歯科大学 理事長

2025年8月 現在

14の老化の特徴

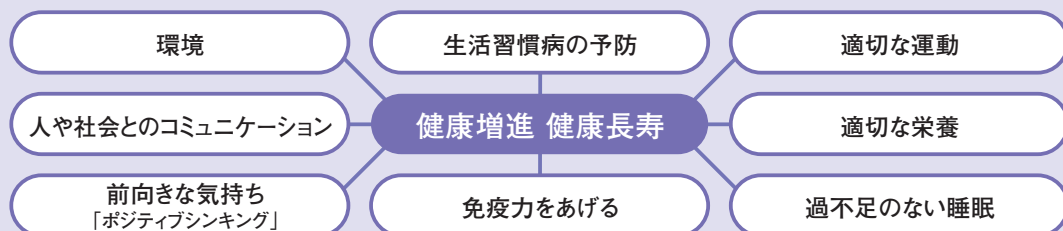
世界的に老化には14の特徴があることがわかってきました

- ① ゲノムの不安定性
- ② テロメアの減少
- ③ Epigenetic 変化
- ④ タンパク質恒常性の喪失
- ⑤ 栄養素の感知
- ⑥ ミトコンドリア機能
- ⑦ 細胞老化
- ⑧ 幹細胞の枯渇
- ⑨ 細胞間コミュニケーションの変化
- ⑩ 侵害されたオートファジー
- ⑪ スプライシングの調節不全
- ⑫ マイクロバイオームの乱れ
- ⑬ 機械的特性の変化
- ⑭ 炎症

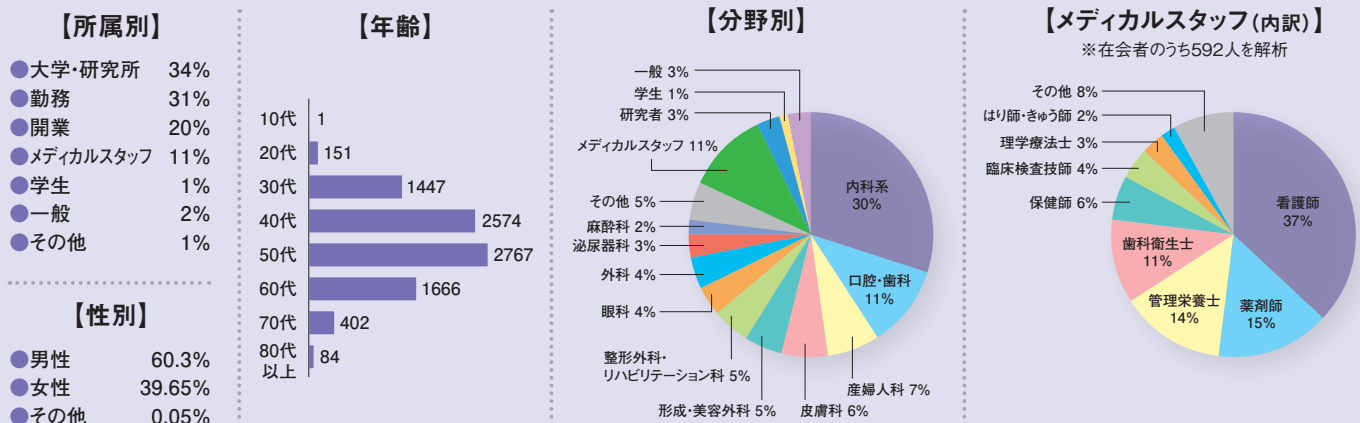
いきいきと自立した生活ができる健康寿命に重要なこと

遺伝情報が共通する一卵性双生児でも寿命が異なることなどから、老化の進み具合は遺伝的要因が2～3割で、7～8割は生活習慣も含めた環境要因とわかっています。われわれの研究でわかったアンチエイジング(抗加齢)で重要なのは、①生活習慣病の予防 ②適切な運動 ③適切な栄養 ④過不足のない睡眠 ⑤免疫力をあげる ⑥前向きな気持ち「ポジティブシンキング」 ⑦人や社会とのコミュニケーション ⑧環境 などです。これらを若いうちからコントロールすることはとても重要です。

今できるアンチエイジングで重要なこと



在会者データ



Aging Scienceはいよいよ実証の時代に

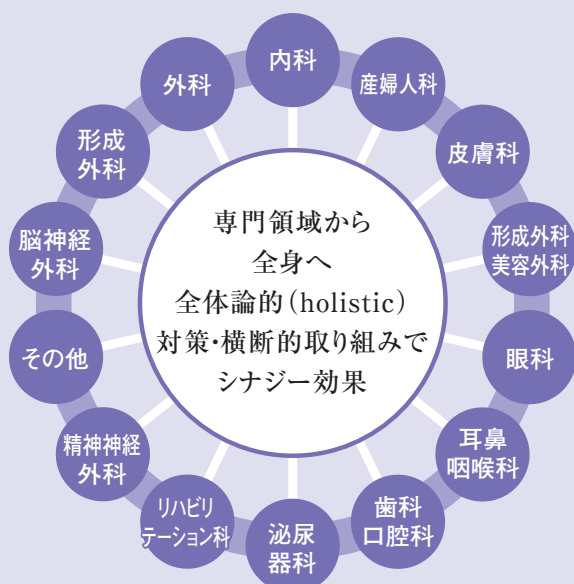
人生100年時代を迎え、健康長寿は一部の人だけのものではなく、誰もが享受できる現実となりつつあります。

抗加齢医療

予防医療・未病医療・先制医療への応用

- 専門領域を超えて患者さんサポートの必要性に応える
- スポーツ／栄養指導／サプリメントなどを活用した補助的かつ積極的な人々の健康生活への介入
- 患者さんの健康意識向上へコミット
- 患者さんの選択的予防行動をサポート
- 笑顔を生む毎日を医学から支える
- 併存疾患を包括的に診る

多領域・多職種で行う抗加齢医療の研究と実践



場 抗加齢医療を推進する場

病院・研究所・クリニック・大学・
大学病院・企業・研究機関・自治体・
住居 など

人 抗加齢医療を推進する人

医師・歯科医師・獣医師・臨床研究者・
基礎研究者・看護師・薬剤師・保健師・
管理栄養士・歯科衛生士・理学療法士・
作業療法士・健康運動指導士・社会福祉士・
臨床検査技師・介護福祉士・
臨床心理士 など

医師・歯科医師

研究 基礎 臨床 開業

病院 研究所 クリニック 大学 大学病院

抗加齢医療の 多領域との 連携

企業

大学 研究機関

栄養学・生物学・物理学
工学・薬学・化学
農学・スポーツ・運動学

研究者

看護師 薬剤師

保健師 管理栄養士

歯科衛生士 視能訓練士 柔道整復師

鍼灸あん摩マッサージ指圧師

理学療法士 運動療法士 社会福祉士

臨床検査技師 介護福祉士 その他

コメディカル分野

専門領域	アンチエイジング対策 疾患等
内科/循環器・血管	高血圧、高脂血症、動脈硬化、心不全
内科/呼吸器	COPD、喫煙、SAS
内科/消化器	非アルコール性脂肪性肝疾患、胃がん、大腸がん
内科/内分泌・代謝	肥満、糖尿病、やせ、糖脂質アミノ酸代謝、間脳下垂体、甲状腺、副腎、ホルモン
内科/腎臓	CKD
内科/脳神経	脳血管障害、パーキンソン病、フレイル、認知症、睡眠障害
精神神経科	うつ、ストレス、メンタルヘルス、認知機能低下、睡眠
整形外科	骨粗鬆症、変形性関節症、変形性脊椎症、ロコモティブシンドローム、サルコペニア
女性医療	女性更年期障害、女性ホルモン、GMS、生殖器(妊活)
男性医療	男性更年期障害、男性ホルモン、生殖器(妊活)、排尿障害
眼科	視力低下、加齢性黄斑変性、ドライアイ、老眼、白内障
耳鼻咽喉科	聴覚・平衡覚・嗅覚・味覚の低下、声、発声障害、嚥下障害
皮膚科・形成外科	光老化、しみ、しわ、たるみ、毛髪などの見た目
口腔・歯科	オーラルフレイル、ドライマウス、口腔細菌、歯周病、口腔機能低下症
外科	悪性疾患手術、良性疾患手術、肥満手術

専門医・指導士認定制度

認定制度

本学会認定カリキュラムにて抗加齢医学を学び、規定の認定単位を取得し、本学会が実施する筆記試験に合格した場合「日本抗加齢医学会専門医」「日本抗加齢医学会指導士」に認定。

認定医療施設

認定医療施設には認定証を交付し、学会ホームページや学会誌にて医療機関情報を公開。



日本抗加齢医学会
認定医療施設認定証

講習会 e-learning

認定医取得に向けた「受験用講習会」、専門医・指導士としての知識をさらに深めるための「更新用講習会」、そしてこれらのWEBセミナーを提供。さらに、医療現場で実践的な抗加齢指導を推進するための「指導士用講習会」も実施。



日本抗加齢医学会
専門医・指導士認定証

専門医3,081名／指導士465名
2024年3月現在

～専門医・指導士の声～

田中 有咲

専門医

私は普段、大学病院で精神科医、また産業医として勤務しています。もともと自由診療にも興味があり、自分の視野を広めるために自費研究会に参加したことが抗加齢医学を知ったきっかけでした。

内科や生物学的な内容がメインで、生物学に関してはほぼ勉強したことはなかったのですが、問題集を解いていくうちにハマっていました。以来、患者さんの生活習慣の改善や予防医学へのアドバイスを心掛けており、その際に学んだ内容が役に立っていると実感します。

取得を少しでも迷っていましたらチャレンジしてみてください。

内藤 洋介

専門医

私が専門医を取得したきっかけは、米国抗加齢医学会の専門医試験を受けるにあたり、折角なので日米の両専門医を取得しようと思った事に起因します。両方取得した事で、日本と米国におけるアンチエイジングの情報に対する知見が増えました。

特に良かった点は、様々な分野の先生やコメディカルの方達とアンチエイジングという共通言語で話ができるようになった事です。

日本が世界において、優れたアンチエイジング医学が提供できる国であると国際的に認識されるような発展を遂げる為にも、次世代の専門医や指導士の皆様が輩出される事を楽しみにしています。

蛭間 重典

専門医

私は不老不死にあこがれて医師を志したため、「抗加齢医学会」なるものがあると知った時には脊髄反射で入会申請をしていました。

総会や講習会、学会誌ではアンチエイジングにまつわる最新情報を得ることができ、診療の場に限らずプライベートでも話題の種として重宝しています。試験勉強用に出版されているテキストや問題集には抗加齢医学の基礎知識が体系的にまとめられていますので、専門医・指導士試験を受けるにせよ受けないにせよ、読書感覚でぜひ一読することをお勧めします。

心身ともに若くありたいと、何事にも興味を持ち環境の変化を楽しむ姿勢を心がけてきました。現在は東邦大学の代謝内分泌学教室で院内助教として執筆や研究活動を進める傍ら、金沢医科大学の内分泌内科学教室では非常勤講師として講義や学生指導を、臨床では表参道にある甲状腺疾患専門病院で内科医として不妊やホルモン失調に悩める患者さまのお力添えをしています。

これからもいろんな刺激を楽しみたいので、見かけたらどなたでもなんなりとお声がけください！

宇都宮 越子

指導士

抗加齢医療に興味があり、専門医・指導士認定制度発足後すぐに指導士の資格を取得しました。

昨年、当院に美容皮膚科・形成外科をオープンしたことをきっかけに、日本抗加齢医学会認定指導士という立場から美容医療や化粧品のお話を患者様（お客様）にさせていただいています。

また、エフエム和歌山から「越子の健康キレ伊塾」のパーソナリティにも依頼され、週に1度自分の番組を持たせていただいています。その中で、学会誌や先生方の最新の情報などもお伝えすることもあり、大変勉強になっています。

これから取得を検討されている方には、自分のアンチエイジングのためにも、医療従事者のステップアップとしてもおすすめする資格です。

学会には、気軽に参加できる交流会などを開催していただけますと嬉しいです。

望月 瑠璃子

専門医

『病気になるたくない』『老けたくない』『いつまでも健康で美しくいたい』

そんな当たり前の気持ちに内科医として応えたく、抗加齢医学会に入会し、今回専門医を取得しました。試験対策は、問題集を何度か勉強しました。

専門医を取得したことで、見た目を気にする女性に対しても、もっと根本的な身体の中の原因に目を向けてほしいと感じ、女性の悩みに寄り添いながら、身体のとータルのケアに取り組むことができています。予防医療がもっと当たり前になるよう、今後とも知識をアップデートし、できるだけ多くの患者様にアンチエイジングの魅力、予防医療の重要性を伝えていきたいです。

岩田 恵子

指導士

2008年から特定保健指導が始まり、血管年齢＝健康年齢ということを実感し、より抗加齢医学を学びたく指導士の資格を取得。学ぶにつれてエイジングの3大要素＝酸化・糖化・炎症を予防するには、食事も大きな役割を担っているということがわかりました。

私は大学卒業後は長年研究職に携わり、現在は抗加齢管理栄養士としてクリニックや全国の官公庁、企業にて栄養指導に従事する傍ら、NYのアンチエイジング施設との連携、コラムの執筆、レストランでのアンチエイジングメニューやサブリの監修、健康番組出演、病院やホテルなど主催のダイエット・美とアンチエイジングに関する講演も多数行なっています。

今後も多くの人々に健康長寿に向けての食からのアプローチを行なっていきたいと思っています。

旭 宣明

専門医

私は歯科医師として臨床に携わりながらダブルライセンスを取得する為、医学部にも在籍しております。

特殊な環境で臨床に関わる身として医学歯学を垣根なく学ぶことのできる本学会に興味を持ち半分学生でありながら専門医を取得しました。異なった分野をアンチエイジングという共通言語で見ることのできる広い視野で臨床にあたれる事を実感しています。

専門医試験を受験するにあたって認定講習会をいくつか受講しました。試験対策としても効果はありますし、何より各分野のスペシャリストの講義は大変勉強になるものでした。これからもアップデートを続けたいと思います。

伊藤 哲朗

指導士

理学療法士として日々患者さんの治療に携わっています。その中で当院にお越しになる方々の年齢は下から上まで様々です。また病気や障害も多種多様であり、一方からの考え方だけでは問題の解決にいたらないことがあります。

そんな時に当院医師の紹介で「抗加齢医学会」を知りました。学会では多くの専門分野に携わる先生方の発表を聞くことができ、毎回多くの発見を得ています。様々な角度から問題解決を目指していきたい方におすすめの学会です。

専門分科会

専門分野で抗加齢医学をさらに極める、地域で広める。

脳心血管抗加齢研究会

www.plus-s-ac.com/ccvaa/

循環器病学は、今や臓器や部位別といった研究の枠組みを超え、神経内科、腎臓内科までをも視野に入れた、身体を包括的に捉えた研究が必要な領域となっている。本研究会では、脳・心血管疾患領域において、加齢と老化のメカニズム研究を促進し、他専門分野との横断的な臨床および基礎研究を行い、知識・技術向上を図る。

代表世話人 森下 竜一 大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学寄附講座 教授

見た目のアンチエイジング研究会

mitame-aa.jp

加齢現象を考えると、大きな変化の表れる「見た目」が1つの指標となる。抗加齢医学領域で、外見へのアプローチとして診療を行うのは、皮膚科、形成外科が主だった専門領域となるが、基礎研究の領域と、臨床で実際に行われていることの間のディスカッションを深め、加齢における見た目についての介入を研究する会としたい。

代表世話人 大慈 弥 裕之 北里大学 形成外科・美容外科 客員教授
NPO法人自由丘アカデミー 代表理事

運動器抗加齢医学研究会

anti-aging.gr.jp/undouki

運動器抗加齢医学は加齢に伴う運動器の機能低下の病態と機序を解明し、食事やサプリメント、運動療法、物理療法、投薬介入など多方面から運動器のアンチエイジングに迫り、有効な方法を探る学問である。本研究会では、運動器とその他臓器の加齢との関連を明らかにして、運動器の機能低下が全身の健康に与える影響についても探求する。

会長 金子 和夫 順天堂大学大学院
医学研究科整形外科・運動器医学 特任教授・名誉教授

抗加齢ウィメンズヘルス研究会

anti-aging-wh.kenkyuukai.jp

わが国の特に女性においては人生100年時代がすぐそこまで来ている。めでたいとされる長寿であるが、健康長寿には限りがあり、「長生きリスク」があるのも事実である。そこで、女性ホルモンの低下を背景にした女性の加齢とその対策をみんなで議論し、深めることによって女性の生涯にわたる健康を支援し、健康寿命の延長を現実としたい。

代表世話人 太田 博明 川崎医科大学 産婦人科学2 特任教授／
川崎医科大学 総合医療センター 産婦人科 特任部長

泌尿器抗加齢医学研究会

www.anti-aging.gr.jp/urological

泌尿器疾患領域は、内分泌からメンタルまでを視野に入れ、抗加齢医学のアプローチによる新しい見方で捉えていく必要性が高まっている。本研究会では、泌尿器疾患での抗加齢医学研究を促進するとともに、泌尿器科医に限らず他の専門分野との横断的な臨床および基礎研究を行い、社会の要請に応えていきたい。

代表世話人 堀江 重郎 順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学 教授

抗加齢内分泌研究会

www.anti-aging.gr.jp/hormone

本研究会は、ホルモンの基礎・臨床に関わる新しい研究を紹介し、健康増進のための各種ホルモンの機能、ネットワーク、相互作用を通じて加齢性変化の研究を促進する。最近ではホルモンの働きが健康寿命の延伸に有効であることも分かってきた。年齢とともに減っていくホルモンをいかに維持していくか、また分泌を増やす生活習慣も提案している。

代表世話人 服部 淳彦 東京医科歯科大学教養部 生物学 教授

眼抗加齢医学研究会

www.anti-aging.gr.jp/eye

超高齢社会において、感覚器医学の中で最も大切な分野と考えられている眼科学。本研究会では、網膜や角膜といった従来の部位別研究を超えて眼の抗加齢医学を統合して考える眼抗加齢医学研究を目指していきたい。加齢と老化のメカニズム研究を促進するとともに、それを基にした診療体制の構築を会の目的としている。

代表世話人 小沢 洋子 藤田医科大学東京 先端医療研究センター
臨床再生医学講座 アイセンター 教授

抗加齢歯科医学研究会

www.anti-aging-dental.com

「食べる、味わう、話す、歌う、笑う」を担う口腔の老化は、身体機能やQOLの低下を招くだけでなく、メンタルヘルスにも影響を及ぼす。本研究会は、歯科医療従事者が中心となって、口腔だけでなく全身、メンタル面を視野に入れたアンチエイジングを歯科医療で実践し、その重要性を広く普及させることを目的としている。

代表世話人 阪井 丘芳 大阪大学大学院歯学研究科
顎口腔機能治療学講座 教授

地方会 九州地方会

九州・沖縄のエリアで、
抗加齢医学の活動を行っています。

<http://jaam-kyusyu.com/>

代表世話人 尾池 雄一 熊本大学大学院生命科学研究部 分子遺伝学講座 教授
熊本大学医学部長／熊本大学大学院生命科学研究部部長

日本抗加齢医学会入会のご案内

種別	対象	入会金／年会費
正会員	タテ割り専門領域を超えた視野の広い活動を行うために、医師のみならず、医生物学の基礎研究者、薬剤師、管理栄養士、看護師、理学療法士など本会を発展させていくために積極的に関わっていただける方	入会金 5,000円 年会費 10,000円
学生会員	上記資格に関わる分野の大学院・大学・専門学校に在籍中の学生の方	入会金 5,000円 年会費 5,000円
施設会員	本会の目的に賛同し、本会の対象とする領域に学術的に関心があり、抗加齢医学研究・診療を実施する施設。	入会金 5,000円 年会費 40,000円(4名まで)

アンチエイジングセミナーのご案内

日本抗加齢医学会では、「地方からアンチエイジングを広めよう!」をテーマに、抗加齢医学を多くの皆様に理解していただくことを目的とした無料のセミナーを、日本各地で開催しています。医療関係者の皆様におかれましては、ご近隣での開催の際にはぜひご参加ください。

詳細は
こちらから

オンライン登録

学会ホームページ
ご入会申込よりオンラインでご登録頂けます。
<https://www.anti-aging.gr.jp/register/>

入会金／年会費 お支払い方法

クレジット・コンビニ支払いから
お選びいただけます。
※詳しくはHPをご覧ください。

アンチエイジング医学を学ぶ

学会誌「アンチ・エイジング医学」

これまで専門領域を勉強されてきた方が、アンチエイジングの概念の中で
楽しく他分野を学び、一般の方にも正しい医療情報をお伝えすることをめざした学会誌。
隔月年6回 A4版変型 約100ページ

目次

- 投稿論文
- アンチ・エイジング医学に関する最新の基礎的および臨床的知見を特集として紹介
- 医療関係者だけでなく、製薬、食品、機器メーカーなど産業界も視野に入れた、産学を繋ぐ誌面構成
- エビデンスに基づいた最新の情報を、一般の方に向けてわかりやすく解説
- 世界のアンチ・エイジング医学の情報を提供



定価 1,500円
消費税(10%) 150円
合計 1,650円

公認テキスト「アンチエイジング医学の基礎と臨床 第4版」

「サイエンスに基づいた抗加齢医学」の視点で、基礎から臨床までを網羅。
本学会HPからクレジット決済でご購入可能です。2023年6月に発行しました

目次

- アンチエイジング医学の理解と展望
- 基礎・生物学的年齢とAging Clock／遺伝子とアンチエイジング医学／タンパク質恒常性とアンチエイジング医学／老化細胞とアンチエイジング医学／ミトコンドリアとアンチエイジング医学／酸化ストレスとアンチエイジング医学／免疫とアンチエイジング医学／脳とアンチエイジング医学／代謝とアンチエイジング医学／ホルモンとアンチエイジング医学／臓器相関とアンチエイジング医学／マイクロバイオーームとアンチエイジング医学／睡眠・体内時計とアンチエイジング医学／カロリー制限・飢餓とアンチエイジング医学／血液成分因子とアンチエイジング医学
- アンチエイジング医学の臨床
- 実践・診断学：アンチエイジング診療を始めよう／身体活動度とアンチエイジング／栄養・食事とアンチエイジング／ストレスマネジメントとアンチエイジング／機能性食品とアンチエイジング／サプリメントの機能性とアンチエイジング／嗜好とアンチエイジング／漢方薬・代替医療とアンチエイジング／アンチエイジングドック／アンチエイジング・インターベンション
- アンチエイジングと環境
- アンチエイジングと社会



定価 8,000円
消費税(10%) 800円
合計 8,800円

書籍版／電子版
定価 6,400円
消費税(10%) 640円
合計 7,040円
※書籍版のみ送料別

Anti-Aging Medicine Basics and Clinical Practice

英訳版「アンチエイジング医学の基礎と臨床 第4版」Springer Natureにてオンライン購入いただけます

目次

- Summarizes the leading-edge research and fact of anti-aging medicine and the aging mechanism
- Presents insights into delaying aging associated with old age for healthier life
- This book relates to SDG Target 3: Good health and well being

How to Purchase

- Available for online purchase via Springer Nature
- Springer Nature Book Page
<https://link.springer.com/book/10.1007/978-981-97-8514-8>

Springer Nature Book



「専門医・指導士認定試験対策問題集 改定版」2022年5月6日発行

専門医・指導士認定試験対策問題集は、主に日本抗加齢医学会
専門医・指導士認定試験を受験する皆様方が、抗加齢医学に関する
知識を深められるように、専門医・指導士として日常診療に携わる上での
専門性を認定する上での基準レベルを示すために、
2022年5月に改訂しました。



定価 4,500円
消費税(10%) 450円
合計 4,950円

会員特別価格
定価 3,000円
消費税(10%) 300円
合計 3,300円



ジャーナル名称を変更し、 あらゆる分野からの老化研究論文を募集します。

ネイチャーとのパートナージャーナル「npj Aging」はエイジングの分野において世界的に重要な研究成果を公開し、開かれた討論の場を提供するオープンアクセスジャーナルです。
世界のエイジングサイエンスをリードすることを使命としています。

Free Article
E-Alerts

A fully open access journal.
npj Aging is an international journal devoted
to publishing research in the
field of aging and age-associated diseases.

npj | aging

nature portfolio

npj Aging のIF (インパクトファクター) は6となりました。

(2025年6月にJournal Citation Reportsからの報告)

<目的と範囲>

npj Agingは、高齢化のあらゆる側面に関して新しい洞察をもたらす原著論文公開の場を提供することを目的としています。

npj Agingは、老化の生物学的調査から、老化プロセスと加齢関連疾患に影響を与える介入の臨床研究、老化の個および社会的影響まで、老化研究全体からの投稿を歓迎します。

<分野>

細胞および分子生物学、遺伝学およびゲノミクス、システム生物学、代謝、老化、タンパク質恒常性、炎症を含む、老化および加齢に関連する疾患に関する基礎研究

再生医療、老年医学、感覚低下、神経変性障害、癌、心血管障害、糖尿病、骨粗鬆症、サルコペニアを含む、加齢および加齢関連疾患の予防と治療に関する翻訳および臨床研究

身体的、精神的および社会的幸福、老年学、人口統計学、医療制度を含む、加齢および加齢に伴う疾患の公衆衛生への影響

本学会会員が筆頭者でアクセプトされた論文に対して掲載料を助成します。

本学会会員のArticle が掲載された場合、
下記の通り、助成として掲載料の半額を学会が負担します。
会員の皆様からの投稿をお待ちしています。

記

(1) 助成内容	掲載料の半額負担
(2) 申告	本学会会員が筆頭者で掲載された論文
(3) 助成数	10本（掲載及び申告順とします。ただし1人1論文まで）
(4) 申告できる者	日本抗加齢医学会会員とする
(5) 申告書・申告先	日本抗加齢医学会 国際ジャーナル委員会事務局 迄 〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町6-3日本橋山大ビル4F TEL: 03-5651-7500 e-mail: info@anti-aging.gr.jp

以 上

会員コミュニティサイト

Action!

人生100年時代の活力をつくる医学マガジン

Presented by 一般社団法人 日本抗加齢医学会



engageコラム

<https://www.anti-aging.gr.jp/action/category/engage/>



「抗加齢医学会みんなで繋がりengageコラム」企画を連載しています。
カテゴリは、以下5つで展開しています。

- ① 研究者・大学所属
- ② 臨床医・開業医
- ③ 女性
- ④ 若手(45歳までを目安に)
- ⑤ レジェンド

コラムをご執筆いただける場合は、
400字程度の文章とお写真を添えて送付して下さい。
皆様からのご投稿をお待ちしています。

anti-ageist

<https://www.anti-aging.gr.jp/action/category/anti-ageist/>



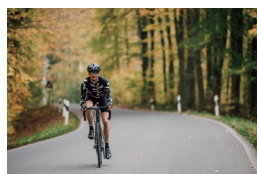
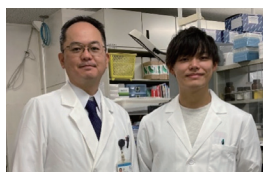
趣味、特技からアンチエイジングにつながる内容でお願いいたします。
400字程度の文章とお写真(1~3枚)を添えて送付してください。
タイトル、ご所属先、お名前もお忘れなくお願いいたします。

専門医・指導士の声

<https://www.anti-aging.gr.jp/action/category/voice/>



資格取得を検討したきっかけや抗加齢医学の魅力、今の仕事にどう活かしているかなど、
専門医・指導士の皆さまからのご投稿をお待ちしています。



【送付先】 pr@anti-aging.gr.jp 広報委員会事務局 宛て

アンチエイジングからイノベーションを! ヘルスケアベンチャー大賞

募集期間：2026年5月7日(木)～7月22日(水) 予定

アンチエイジング(抗加齢)・ヘルスパン(健康寿命)の視点から、
技術・サービス・ビジネスモデルを持つベンチャーや企業の新規事業を広く募ります。

生活習慣病の予防、老化による疾病予防、高齢者の自立、医療、介護、技術、創薬、遺伝子治療、再生医療製品、
食品、化粧品、AI、ヘルスケアIT、ビッグデータ解析、ディープラーニング、ウェアラブルデバイス、環境など。

賞 金 大賞：100万円 学会賞：30万円 ヘルスケアイノベーションチャレンジ賞：20万円

副 賞 ●ファイナリスト企業を「日本抗加齢協会認定スタートアップカンパニー」に認定します ●資金調達の支援(ベンチャーキャピタルの紹介)
●製品やサービスの紹介(生活総合情報サイトAll About、ケアネット) ●必要に応じて医学的な見地でのアドバイスや監修
●大賞、学会賞受賞者は、「第27回日本抗加齢医学会総会」での発表(シンポジウム)
●受賞企業に「第27回日本抗加齢医学会総会」の企業展示支援

応募方法 応募要項、書類はホームページでご案内いたします。 <https://www.ko-karei.com/healthcare-v/>



過去6回 大賞受賞企業

- 第1回：アンチエイジングベプタイド株式会社(現:株式会社ファンベップヘルスケア)
「機能性ショートペプチドによる化粧品材料の開発」
第2回：合同会社アントラクト(現:UNTRACKED株式会社) 「StA²BLEによる転倒リスク評価と機能回復訓練事業」
第3回：iMU株式会社 「ウェアラブルセンサーによる膝痛対策ツールの開発」
第4回：株式会社エム 「脳MRI画像解析に基づく全脳の構造別体積・健康状態の可視化、認知症予防」
第5回：株式会社アイ・ブレインサイエンス 「認知症の早期診断を実現する医療機器の実用化」
第6回：株式会社CCHサウンド 「軟骨伝導による高齢者が生き生きと活躍するための窓口の実現と認知症の予防」

問合せ ヘルスケアベンチャー大賞事務局
(日本抗加齢協会内)

〒103-0024
東京都中央区日本橋小舟町6-3
日本橋山大ビル4F
TEL：03-5651-7503
e-mail：healthcare-v@anti-aging.gr.jp
※審査に関するお問い合わせには応じられません。

主催:日本抗加齢協会 共催:日本抗加齢医学会



2025年度 日本抗加齢医学会褒章制度 候補者募集について

褒章委員会では、褒章制度各賞の候補者を募集しています。褒章制度は、抗加齢医学及び抗加齢医療の進歩に
貢献することを目的としています。学会へ貢献のあった会員様を表彰するため様々な賞を用意しています。

募集期間

2025年8月1日(金)～10月31日(金)まで

受賞者の発表

褒章制度HP：2025年12月予定
学会誌：2026年2月号

授賞式

第26回 日本抗加齢医学会総会内
2026年6月26日(金)～6月28日(日)
パシフィコ横浜ノース

各賞紹介

ご応募、ご推薦をお待ちしております。

長年にわたる学会への発展に功績があった会員を
表彰。褒章委員会による検討の上、決定する。

🏆 抗加齢医学功労賞(推薦のみ)

大学、研究機関、企業など抗加齢医学に
関する優秀な研究者を表彰する。

🏆 日本抗加齢医学会学会賞

🏆 研究奨励賞

🏆 若手研究者賞

多職種の連携、多様な人材・能力を活かし最大限発揮できる
機会を提供するなど、ダイバーシティ化への貢献があった
会員を表彰する。推薦が必要。

🏆 ダイバーシティ貢献賞(推薦のみ)

抗加齢医学に関わる活動に取り組む
メディカルスタッフ職で構成された
グループを表彰する。

🏆 メディカルスタッフチーム賞

問合せ 日本抗加齢医学会 褒章委員会 事務局

〒103-0024
東京都中央区日本橋小舟町6-3 日本橋山大ビル4F
TEL：03-5651-7500 FAX：03-5651-7501
e-mail：award@anti-aging.gr.jp

応募方法(8月1日より募集開始) 褒章制度HP <https://www.anti-aging.gr.jp/prize/>

HPより指定の申請書類をダウンロード、記入いただきメールまたは必要書類を添えて
お送りください。(書類電子化のためデータ応募を推奨しております。)
データ応募：award@anti-aging.gr.jp
メール添付(10MBまで)またはファイル転送サービスにてお送りください。



第26回日本抗加齢医学会総会



『人新世』のアンチエイジング:食事、運動、睡眠、美容による統合医療

<https://www.c-linkage.co.jp/jaam2026/>

会長あいさつ

このたび、2026年6月26日(金)～6月28日(日)の3日間にわたり、パシフィコ横浜ノースにて第26回日本抗加齢医学会総会を開催できますことを、大変光栄に存じます。多くの皆様のご支援とご協力に、心より感謝申し上げます。

本総会のテーマは、「『人新世』のアンチエイジング:食事、運動、睡眠、美容による統合医療」といたしました。

「人新世」とは、人間の活動が地球環境や社会に重大な影響を及ぼす新たな時代区分です。この時代におけるアンチエイジングとは、単に若さを保つことではなく、持続可能な生き方、環境との共生、社会との調和をも含んだ“統合的な健康の探求”を意味します。

食事、運動、睡眠、美容といった基本的生活要素は、個人の健康を支えると同時に、医療資源として科学的に評価・活用されるべき対象です。本総会では、これらを統合医

療の視点で捉え、予防・診断・治療・生活支援までをもつなぐ多角的な議論を展開してまいります。

人生100年時代、医療と社会が連携し、一人ひとりがその人らしく年齢を重ねられる社会の実現に向けて、皆様とともに考える場となることを願っております。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

大会長 **山岸 昌一**

昭和医科大学医学部内科学
糖尿病・代謝・内分泌内科学部門
主任教授



会 期

2026年6月26日(金)～6月28日(日)

会 場

パシフィコ横浜ノース 神奈川県横浜市区 みなとみらい1丁目1-2

テーマ

『人新世』のアンチエイジング:食事、運動、睡眠、美容による統合医療

開催形式

現地開催

オンデマンド配信 ※一般演題・共催セミナーを除く一部のプログラムを配信予定(配信期間未定)

主催：一般社団法人日本抗加齢医学会

担当事務局：昭和医科大学医学部内科学糖尿病・代謝・内分泌内科学部門

運営事務局：株式会社コンベンションリンケージ内

〒102-0075 東京都千代田区三番町2

TEL：03-3263-8688 FAX：03-3263-8693

E-mail：jaam2026@c-linkage.co.jp



The 26th Scientific Meeting of the Japanese Society of Anti-Aging Medicine

第26回日本抗加齢医学会総会

会 長

山岸 昌一

昭和医科大学医学部 内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科学部門 教授

「**人新世**」のアンチエイジング
食事、運動、睡眠、美容による統合医療

2026.6/26 Fri. - 28 Sun.

パシフィコ横浜ノース

主催：一般社団法人日本抗加齢医学会

運営事務局 株式会社コンベンションリンケージ内 〒102-0075 東京都千代田区三番町2
TEL: 03-3263-8688 FAX: 03-3263-8693 E-mail: jaam2026@c-linkage.co.jp

<https://www.c-linkage.co.jp/jaam2026/>